

# 農作業死者なお高水準

## 22年 就業10万人当たり最多

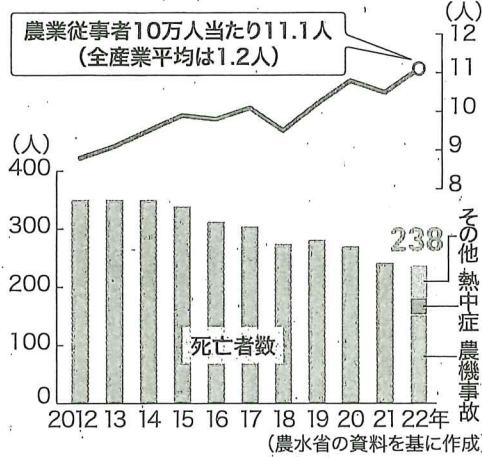
農水省は22日、2022年に発生した農作業事故の死亡者は2338人だったと発表した。前年から4人減ったが、農業従事者10万人当たりでは前年より0.6人増の11.1人で過去最高。全産業平均の1.2人と大きく開きがある状況だ。同省は26年までに死亡者数を半減させる新目標も設定。熱中症予防や農機作業の安全確保に向けた研修会の受講を農家に促す。

### 農水省目標 26年までに半減

22年の農作業死亡事故のうち、農機が関わるものが最も多く64%（152人）を占め、その約半分（72人）が「機械の転倒・転落」が原因だった。農機別では、乗用型トラクタ（62人）、歩行型トラクタ（21人）、農用運搬車（16人）、自脱型コンバイン（11人）の順に死亡事故が多かった。

熱中症が原因の死亡事故は12%（29人）を占めた。同割合は増加

農作業事故による死亡者数の推移



傾向で、同省は近年の「猛暑に加え、「農業は一人作業が多く、周囲背景にある」とも

死亡者は高齢者が多く、80歳以上が全体の42%、65歳以上では86%を占めた。就業人口10万人当たりの死亡者数は、過去最高だった20年の10.8人を上回った。危険な作業が伴うとされる建設業の5.9人のほぼ倍に上るなど他産業

より高い水準が続く。

同省は同日、24年度の農作業安全対策の推進方針を「学ぼう！正しい安全知識」機械作業の安全対策と熱中症の予防策」とすると発表。「強化期間」として5月7月に熱中症対策、12月5翌年2月に農機事故の安全知識の向上を中心とする農作業安全研修をそれぞれ推進する。同省は、24年26年の3年間を集中対策期間とし、26年の

## 事故の原因究明課題

農水省はこれまで春と秋の年2回、「全国農作業安全確認運動」を展開してきた。運動で

は、シートベルトの装着呼びかけなど、農機関連を中心に農家への注意喚起に重点を置いてきた。だが、農機作

業による死亡事故を22年までに17年比で半減させ105人にするとの従来目標は、達成できなかった。同省は

「現場の実情に即した正しい知識を習得してもらうことが重要」とし、24年度から同運動に代わり、農家への研修を実施する「強化期間」を設ける。より多くの農家に研修を行った県の方が、死亡者数が減る傾向が見られたという。一方、死亡事故削減には、なぜ事故が思う

ように減少しなかったのか、その原因究明をさらに進めることも重要だ。国は、自営農家を含む個人事業者が大きな役割を負った際、労働基準監督署に情報提供を求める仕組み作りを着手している。農作業事故の実態把握や原因分析の強化につなげるべきだ。(古田島知則)